

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100127		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい岡宮	ユニット名	2階
所在地	静岡県沼津市岡宮598-2		
自己評価作成日	平成28年2月10日	評価結果市町村受理日	平成28年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=2291100127-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成28年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームでの集団生活になりますので、個人に合わせた空間作りに力を入れています。グループ理念、介護の約束5カ条と仕事の約束5カ条を基に介護に取り組んでいます。また、自事業所での委員会を立ち上げました。3大介護に着目し介護未経験のスタッフの教育と介護の楽しさ、私達の仕事を理解してもらえるように1~2ヶ月の目標を立て日々業務に当たっています。
その方に合わせた日常生活を送って頂けるよう、ニーズを探りながらゆったりと穏やかな日常が送れるよう支援致しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

区画整理された土地に平成26年に開設した事業所で、地域住民の理解と関係を深めるために、出来ることから一つひとつ取り組んでいる。毎月、食事や入浴・排せつの三大介護の委員会を開催して振り返りを行い、月の目標や具体的な取り組みを決めて、利用者本位の支援に努めている。経験の浅い職員には困っていることや質問等の意見を聞いてスキルアップのための目標を設定したり、誘導や声掛けを「ご案内」「言葉かけ」と言い換える等工夫して、明るく自然に丁寧で穏やかな対応をしている。毎年外部評価を受けることを書類に明記しており、グループホームの質を向上させる意識の高さがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふれあいグループの理念とは別に事業所の運営理念を作成し日々唱和し目標達成に向け支援させて頂いている。	法人の理念「敬愛・創造・貢献」と、グループホームの理念「あたたかく家庭的なふれあいの家」に基づく、仕事の約束5カ条と介護の約束5カ条を唱和し、ありがとうの気持ちを忘れずに明るく笑顔で日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の保育園・幼稚園との交流は図っているが、地域の方との交流は乏しい。 今年に入り月に1度ゴミ拾いの取り組みを行い馴染めました。	地域住民との付き合いはまだ始まったばかりである。ボランティアの来訪でポプリ作りを楽しんだり、ゴミ拾いやチラシを配って納涼祭に参加してもらおう等、地域との関係が深まるように工夫して取り組んでいる。	事業所の奉仕活動等の取り組みが実を結んで、近隣住民との交流が盛んになることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様向けに運営推進会議で認知症サポーター講座を包括に依頼し行いました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	先月までの行事の取り組みや、事故内容、ご家族様への依頼内容など報告を行っている。会議の最後に御家族様より御意見頂き、意見を参考により良いサービスを提供できるよう支援に活かしている。	小規模多機能施設と合同で開催し、家族や地域包括支援センター・歯科衛生士等が参加している。民生委員が参加してくれるようになった。事業所の取り組みや現状・事故報告をして家族との意見交換等を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	沼津市長寿福祉課とは、施設立ち上げ時からお世話になっており、御指導頂いています。	運営推進会議を家族が参加しやすい土日に行っているため、市職員の運営推進会議の参加は難しいが、会議の議事録は市に報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠・各階の施錠に関しては、ご本人・ご家族のご理解の下、危険リスクを考え行っております。 階段や窓からの転落事故を防ぐため行っています。	身体拘束のマニュアルがあり、研修を行っている。研修後には職員にアンケートを取り、感想や疑問点等を把握して、知識の向上を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	どのようなことが虐待につながるかなど常に会議等でスタッフに伝え行っている。 また、グループ内の社内研修にて虐待について取り上げ研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている利用者様が入居されているため、スタッフにはどのような制度かを説明はしているが、スタッフ1人1人が理解できるまでは内容を落とすではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時・退去時に説明を行い同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご要望や御意見頂き、玄関先に御意見箱を設置している。	個々の写真入りの便りを毎月送り、日常生活や行事・今後の予定を知らせている。家族の意見は、運営推進会議や訪問の際に声を掛けたり電話で聞き出すようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際にスタッフの意見をもらえるように努力している。また、定期的にスタッフとの面談をし意見を聞き反映できるよう努力している。	毎月の会議や定期的に行う個人面談で、経験の浅い職員には困っていることやわからないこと等を聞き、スキルアップのための目標を設定している。意見や要望を言いやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を基準に評価を行っている。正社員は年に2回、社員は年に1回行っている。また、自事業所で1年の目標を面談の中で一緒に決め、半年スパンで面談を行い振り返りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ふれあいグループで、社内研修委員会があり定期的に研修を開催しているため、参加してもらい、個人でスキルアップに努めてもらっている。また、新人職員には研修記録を14日間行い、トレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部のグループホームの管理者様とは北部のグループホーム会議に参加し報告し合っている。また、ふれあいグループ内でもグループホーム会議があるため、会議の際や困った際は相談や指導頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはご本人・ご家族より情報収集に努め、ご本人を理解することから始め、コミュニケーションを大切に取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へは、入居までのご本人の姿や、ご家族の苦労などのお話を伺い、施設での取り組みや要望を伺いケア内容に落とし込みを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人にお会いさせて頂き、ご本人やご家族に御意見やニーズを探りサービスに繋がられるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症を患っておられるが、1人の人間として敬意をはらい関わりを持たせて頂いています。コミュニケーションを大事にし信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面談に来て頂けるよう、施設管理者より連絡を取り、施設に来て頂けるようお声掛けさせて頂いている。また、月に1度ご家族へ手紙を送り施設での様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出や面会時は自由に行って頂き、スタッフとも外出や散歩、買い物を行っている。	市内に住む友人が頻繁に訪ねてくる利用者や、家族と外出や外泊に出掛ける利用者等がおり馴染みの関係が継続されている。散歩の際には近隣住民とあいさつを交わしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の交流を大切にし、職員が間に入り、コミュニケーションを取れるよう図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居時に面会者の有無をお聞きし、個人情報取り扱いに関しては十分に気をつけ、ご家族から了承頂いている方には、施設への面会を可能とし、面会して頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月開催しているケアカンファレンスで情報収集を行っている。また、ご本人・ご家族より希望や要望が無いかお聞きしている。	アセスメントやカンファレンス、家族からの情報や日常生活の中で思いや意向を把握するようにしている。本人の口から直接話してもらえることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、ご家族様や親族に情報提供頂き、今までの暮らしや最近の状況や困っている事やこれからの生活について御意見頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フロアでリーダー中心にその方の過ごし方を把握し安定した日常生活を送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアカンファレンスで個別ケアに関して話し合いを行っている。また、ご家族や診療所に相談しケアプランに反映している。	モニタリングを行なって情報や意見を交換している。今後の課題や目標を職員が手書きで記入し、ケアマネジャーがパソコン入力して介護計画を完成させている。職員全員で情報の共有を行って家族に報告や確認をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時に情報を共有し、個々の記録を記入し、ケアプランの見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、ニーズに対してスタッフ間で話し合い、より良いサービス提供が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様のご家族や、友人、知人などの繋がりを大切にしながら、外出などの支援もを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科に関しては提携医に依頼しているが、これまでの病院を継続して方もいるため、通院時必要であれば付き添うなど、日頃の様子を報告している。	提携の診療所の往診や歯科医が来訪して口腔ケアが行われている。利用者の薬は薬剤師が個別に分袋して来訪し、事務室で保管されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師の24時間オンコール対応の実施と、施設看護師への情報提供を行い、指示を仰ぎ適切な受診や対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療連携先の大岡診療所との情報交換や、ご家族や医療機関に相談に努めている。退院時にも医療先と連携を図り、ご家族との相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明させて頂き、ご本人やご家族の医師を尊重し、方針を共有できるようにしている。	重度化した場合の対応に係る指針があり、入居時に本人や家族に説明している。本人や家族の意向を確認して医師との話し合いを行い、医療機関への入院や事業所での看取り等、納得した最期を迎えられるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は、フローチャートに沿って行い、常に医療連携先の大岡診療所に指示をもらい対応している。 また、AEDの設置をしている為、AEDの研修などを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、定期的に訓練を行っている。 また、防災委員会を中心に防災訓練を行っている。	偶数月に1回避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練や、チェック表を使い事業所内の安全確認を毎月行っている。	法人本部が地域の避難所になっているが、事業所も災害時の近隣住民の一時避難所とし、地域住民と理解や協力が得られるようになる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方とのコミュニケーションを図る際に、プライバシーに配慮した言葉かけや丁寧な言葉遣いを意識して行っている。岡宮では誘導をご案内、声掛けを言葉かけに変え職員の意識改革を行いました。	声掛けや誘導という言葉に違和感を感じるほど、職員間では「ご案内」「言葉かけ」の言い換えが浸透している。明るく自然に、優しい言葉遣いで利用者の尊厳を損なわない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様個人に合わせて、自己決定して頂けるよう言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の第2の住まいとして生活されているため、スタッフのペースにならないよう支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え・外出の際は、ご本人に洋服を選択して頂いている。また、訪問美容室が来設された際はご本人の好みの髪型にできるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は一緒に行き、食事を作る際など一緒に作るなどお手伝いして頂き、出来ることは行って頂いている。また、食べたい食事を伺い、調理レクを行っている。	食事作りが不得意な職員が多いため、ご飯と汁物以外のおかずは、湯せんの介護食を利用している。レクリエーションの中で利用者と一緒におやつ作りやお好み焼き作り等を行い、手作りの食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分量を記録し落とし周知している。水分や食事摂取が難しい方には、食事の形態に配慮した状態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、定期的に歯科往診があるため、御希望されている利用者様は診てもらい、治療等積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々排泄の記録を付け、個人の排泄パターンの把握に努めている。トイレでの排泄を行えるよう支援させて頂いている。	自らトイレに行く利用者もいるが、タイミングをみて声を掛け誘導する利用者もいる。個々の様子を観察しチェック表を使って、トイレでの排せつ支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自事業所の委員会を発足し、排泄委員会中心に取り組みを行っている。具体的には毎日の体操や散歩、食事に関してはバランスのよい食事を提供できるよう行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、ご本人をお誘いし入浴を行っているが、入浴が苦手な方もいるため、曜日を決めさせて頂いている方もいる。	バイタルチェックを行い、声掛けをして2日から3日に1回入浴をしている。浴室には窓はないが、浴室は広く介護用の浴槽が設置されている。入浴後に水気をふき取り、換気で乾燥し清潔に保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体力・その時の体調に合わせて仮眠や休息を取れるよう支援させて頂いている。また、夜間は加湿を行ったりと環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	グループ全体の服薬マニュアル通りに行っている。また、診療所の判断にて薬の調整や相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみを作ることに関しては、外出レクリエーションや誕生日の際にご家族様をお誘いし外食や行きたい場所へ外出したりと支援させて頂きたい。その他にも利用者様よりご要望があれば対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホームふれあい岡宮は2階3階になるため、少人数で天気が良い日は散歩に出かけている。ご家族様にも運営推進会議や連絡させて頂き、来設して頂いて際には外へ一緒にに行けるようご協力を求めている。	天気が良い日には近くの公園等に散歩に出掛けている。フロアごとで初詣や外食等に出掛けることもある。個々の希望の場所には家族と一緒に出かけ、頻りに家族と外出し外泊している利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ふれあいグループでは基本全て立替金にさせて頂いている。しかし、ご本人が心配にならない程度の金額(1,000円程度)を持たれている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月1度日頃の様子をご家族様にお手紙や写真を送らせて頂いている。ご本人から電話の依頼があった場合は、お繋ぎさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアが南向きのため、日中は日の光を多く取り入れることができます。また、季節の飾り付けなどを一緒に作り、環境作りを行っています。	居間は広くて歩行を妨げる障害物も少なく、窓から差し込む光で明るい。食卓の椅子は背もたれが高く座り心地が良い。壁にはレクリエーションの時の写真等が貼られて、季節感のある落ち着いた飾りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間(フロア)は食事とくつろぐスペースを分けることができるので、その方に合わせた居場所づくりを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基本、ご本人が以前から使用していた家具などを置いて頂けるようご家族に依頼し、入居時やその後に持参して頂いています。	事業所のベッドを使い、布団は専用の掃除機を頻繁に使用して清潔に保たれている。使い慣れた家具を置き、ぬいぐるみや家族との写真・職員から送られて賞状等を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在出来ることを継続しておこなうことが出来るよう、生活の中でできることを一緒にさせて頂いています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100127		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい岡宮	ユニット名	3階
所在地	静岡県沼津市岡宮598-2		
自己評価作成日	平成28年2月10日	評価結果市町村受理日	平成28年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=2291100127-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成28年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームでの集団生活になりますので、個人に合わせた空間作りに力を入れています。グループ理念、介護の約束5カ条と仕事の約束5カ条を基に介護に取り組んでいます。また、自事業所での委員会を立ち上げました。3大介護に着目し介護未経験のスタッフの教育と介護の楽しさ、私達の仕事を理解してもらえるように1~2ヶ月の目標を立て日々業務に当たっています。
その方に合わせた日常生活を送って頂けるよう、ニーズを探りながらゆったりと穏やかな日常が送れるよう支援致しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふれあいグループの理念とは別に事業所の運営理念を作成し日々唱和し目標達成に向け支援させて頂いている。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の保育園・幼稚園との交流は図っているが、地域の方との交流は乏しい。 今年に入り月に1度ゴミ拾いの取り組みを行い馴染めました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様向けに運営推進会議で認知症サポーター講座を包括に依頼し行いました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	先月までの行事の取り組みや、事故内容、ご家族様への依頼内容など報告を行っている。会議の最後に御家族様より御意見頂き、意見を参考により良いサービスを提供できるよう支援に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	沼津市長寿福祉課とは、施設立ち上げ時からお世話になっており、御指導頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠・各階の施錠に関しては、ご本人・ご家族のご理解の下、危険リスクを考え行っております。 階段や窓からの転落事故を防ぐため行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのようなことが虐待につながるかなど常に会議等でスタッフに伝え行っている。 また、グループ内の社内研修にて虐待について取り上げ研修を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている利用者様が入居されているため、スタッフにはどのような制度かを説明はしているが、スタッフ1人が理解できるまでは内容を落とすではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時・退去時に説明を行い同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご要望や御意見頂き、玄関先に御意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際にスタッフの意見をもらえるように努力している。また、定期的にスタッフとの面談をし意見を聞き反映できるよう努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を基準に評価を行っている。正社員は年に2回、社員は年に1回行っている。 また、自事業所で1年の目標を面談の中で一緒に決め、半年スパンで面談を行い振り返りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ふれあいグループで、社内研修委員会があり定期的に研修を開催しているため、参加してもらい、個人でスキルアップに努めてもらっている。また、新人職員には研修記録を14日間行い、トレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部のグループホームの管理者様とは北部のグループホーム会議に参加し報告し合っている。また、ふれあいグループ内でもグループホーム会議があるため、会議の際や困った際は相談や指導頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはご本人・ご家族より情報収集に努め、ご本人を理解することから始め、コミュニケーションを大切に取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へは、入居までのご本人の姿や、ご家族の苦労などのお話を伺い、施設での取り組みや要望を伺いケア内容に落とし込みを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人にお会いさせて頂き、ご本人やご家族に御意見やニーズを探りサービスに繋がられるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症を患っておられるが、1人の人間として敬意をはらい関わりを持たせて頂いています。コミュニケーションを大事にし信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面談に来て頂けるよう、施設管理者より連絡を取り、施設に来て頂けるようお声掛けさせて頂いている。また、月に1度ご家族へ手紙を送り施設での様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出や面会時は自由に行き、スタッフとも外出や散歩、買い物を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の交流を大切にし、職員が間に入り、コミュニケーションを取れるよう図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居時に面会者の有無をお聞きし、個人情報の取り扱いに関しては十分に気をつけ、ご家族から了承頂いている方には、施設への面会を可能とし、面会して頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月開催しているケアカンファレンスで情報収集を行っている。また、ご本人・ご家族より希望や要望が無いとお聞きしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、ご家族様や親族に情報提供頂き、今までの暮らしや最近の状況や困っている事やこれからの生活について御意見頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フロアでリーダー中心にその方の過ごし方を把握し安定した日常生活を送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアカンファレンスで個別ケアに関して話し合いを行っている。また、ご家族や診療所に相談しケアプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時に情報を共有し、個々の記録を記入し、ケアプランの見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、ニーズに対してスタッフ間で話し合い、より良いサービス提供が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様のご家族や、友人、知人などの繋がりを大切にしながら、外出などの支援もを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科に関しては提携医に依頼しているが、これまでの病院を継続して方もいるため、通院時必要であれば付き添うなど、日頃の様子を報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師の24時間オンコール対応の実施と、施設看護師への情報提供を行い、指示を仰ぎ適切な受診や対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療連携先の大岡診療所との情報交換や、ご家族や医療機関に相談に努めている。退院時にも医療先と連携を図り、ご家族との相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明させて頂き、ご本人やご家族の医師を尊重し、方針を共有できるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は、フローチャートに沿って行い、常に医療連携先の大岡診療所に指示をもらい対応している。 また、AEDの設置をしている為、AEDの研修などを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、定期的に訓練を行っている。 また、防災委員会を中心に防災訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方とのコミュニケーションを図る際に、プライバシーに配慮した言葉かけや丁寧な言葉遣いを意識して行っている。岡宮では誘導をご案内、声掛けを言葉かけに変え職員の意識改革を行いました。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様個人に合わせて、自己決定して頂けるよう言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の第2の住まいとして生活されているため、スタッフのペースにならないよう支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え・外出の際は、ご本人に洋服を選択して頂いている。また、訪問美容室が来設された際はご本人の好みの髪型にできるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は一緒に行き、食事を作る際など一緒に作るなどお手伝いして頂き、出来ることは行って頂いている。また、食べたい食事を伺い、調理レクを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分量を記録し落とし周知している。水分や食事摂取が難しい方には、食事の形態に配慮した状態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、定期的に歯科往診があるため、御希望されている利用者様は診てもらい、治療等積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々排泄の記録を付け、個人の排泄パターンの把握に努めている。トイレでの排泄を行えるよう支援させて頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自事業所の委員会を発足し、排泄委員会中心に取り組みを行っている。具体的には毎日の体操や散歩、食事に関してはバランスのよい食事を提供できるよう行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、ご本人をお誘いし入浴を行っているが、入浴が苦手な方もいるため、曜日を決めさせて頂いている方もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体力・その時の体調に合わせて仮眠や休息を取れるよう支援させて頂いている。また、夜間は加湿を行ったりと環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	グループ全体の服薬マニュアル通りに行っている。また、診療所の判断にて薬の調整や相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみを作ることに関しては、外出レクリエーションや誕生日の際にご家族様をお誘いし外食や行きたい場所へ外出したりと支援させて頂きたい。その他にも利用者様よりご要望があれば対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホームふれあい岡宮は2階3階になるため、少人数で天気が良い日は散歩に出かけている。ご家族様にも運営推進会議や連絡させて頂き、来設して頂いて際には外へ一緒に行けるようご協力を求めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ふれあいグループでは基本全て立替金にさせて頂いている。しかし、ご本人が心配にならない程度の金額(1,000円程度)を持たれている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月1度日頃の様子をご家族様にお手紙や写真を送らせて頂いている。ご本人から電話の依頼があった場合は、お繋ぎさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアが南向きのため、日中は日の光を多く取り入れることができます。また、季節の飾り付けなどを一緒に行い、環境作りを行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間(フロア)は食事とくつろぐスペースを分けることができるので、その方に合わせた居場所づくりを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基本、ご本人が以前から使用していた家具などを置いて頂けるようご家族に依頼し、入居時やその後に持参して頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在出来ることを継続しておこなうことが出来るよう、生活の中でできることを一緒に行って頂いています。		